

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300475		
法人名	有限会社えがお		
事業所名	グループホームえがお人吉		
所在地	熊本県人吉市西間下町1028-4		
自己評価作成日	令和5年 11月 16日	評価結果市町村報告日	令和6年 1月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和5年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一期一会」の精神で一瞬一瞬を大事にケアを行っております。現在は、感染症予防対策で面会を制限しておりますが、毎月のお手紙やSNSを活用したテレビ電話など利用者様ご家族様や馴染みの方との繋がりが途切れない様に心掛けております。また、季節ごとのイベントやドライブ、外気浴などを企画し、日々楽しんで過ごしていただける様な取り組みも行っています。建物は和風な木造平屋造りで、リビングからは中庭で洗濯物や布団などが干してある光景が目に入り、家庭的な雰囲気を感じ取れるような環境作りを行っています。またホームでは、最期まで過ごしていただける様に看取りを行っており、それぞれの職員が統一したケアが出来る様にクリニカルパスを作成しており、看取り研修も行ってあります。また、職員の認知症ケア向上の為に、月1回の内部研修や外部研修へのサポートを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「一期一会」を大切にされた支援を日常生活へとつなげるように心がけて日々の暮らしがなされています。コロナ禍以後、室内で過ごす時間が増えたため、四季折々の行事を楽しむような提供がなされています。最近になり、花見等ドライブが再開され、家族にも通院等での協力をお願いする等、入居者と家族の関係支援も元に戻りつつあります。職員は年2回の職員面談の機会があり、働きやすい環境作りへの取組みもありました。しかし近年、車椅子利用が増えているとの話を聞きました。それ故、この一瞬を大事に過ごしていくために、ひとり一人の思いや喜びを利用者・家族、職員・事業所に関わる誰もが感じられるホームの醸成を共有するために理念を改めて大切に刻んでいただくことを望みます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に介護理念と介護目標の唱和を職員で行っている。また、その理念に基づき、会社全体の年間目標及び個人目標が達成出来る様に努力を行っている。	法人理念を介護理念とし、毎日の申し送り時に唱和している。運営推進会議でケアについての意見が出る際には理念に基づいたケアを行っていることを説明している。	理念の唱和で共有を図っている様子が聞かれました。理念は事業所取組みの柱となるもので、介護計画の基となるものと考えます。入居者それぞれの介護計画が理念に繋がるものであることを職員間で共有する取組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前の様には町内行事への参加は出来ていないが、町内行事や活動について情報を入手し、奉仕活動等に協力している。また、外気浴時には挨拶を交わし、日常的に交流出来る様、取り組んでいる。	コロナ禍以降、地域行事等に参加する機会は少なくなったものの、地域清掃への職員の参加や運営推進会議の対面実施等での関わりは継続している。気候が良い日には散歩に出向いている。運営推進会議等では災害避難等に意見を頂く等、情報・意見交換を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や民生委員からの相談に耳を傾け、認知症ケアの実践力を活かし対応出来る様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、町内会長、民生委員、家族代表、知見を有する方、行政の方に参加していただき、利用者の状況、サービスについて報告を行っている。また、課題を抽出し、サービス向上に活かせる様、意見交換を行っている。	書面報告・対面実施については市により要領が定められており、基づいて開催している。書面報告の際はできるだけ写真を用いて日頃の生活が伝わるようにし、「意見書」にて書面で意見等を頂いている。対面実施の際には地域から災害時の避難について意見を頂いたり悩み相談を受うる場面もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や集団指導において、情報交換や意見、アドバイスをいただき、ケアサービスに活かせる様にしている。また、日頃より連絡を取り合い、あらゆる点において相談、情報交換出来る関係を築く様にしている。	日頃の報告・連絡・相談や運営推進会議への参加等で協力関係の構築に取り組んでいる。運営推進会議開催時は意見交換もっており、書面開催時にも書面で意見を頂く等、積極的に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当社において身体拘束についてのマニュアルを作っており、身体拘束委員会において3ヶ月に1回、ケアについて協議を行っている。また、毎年全職員に対して内部研修を通じて理解及び教育を行っている。	法人全体で開催する身体拘束委員会には担当職員が参加し、議事録で共有している。職員研修で学ぶ機会を持っている。	車椅子利用者も増え、入居者自身での移動が難しい方も増えた様子が見えました。可能な入居者に対し、車椅子は移動手段と捉え、また車椅子利用に関わらず、時にはソファや居室等で過ごす時間を作ったり、車椅子の周囲に十分なスペースを確保する等の工夫に期待します。

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待においては、全職員に対して内部研修を行っており、高齢者虐待についての周知を行い、防止に努めている。また、事業所内では、入浴時や更衣時に皮膚等に異常が無いか等の全身観察を行う様徹底しており、もし異常があれば、管理者や看護師へ報告を行う様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されておられる方はいないが、管理者や職員においては、研修を通じて事業や制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の入所前には契約に際し、説明を行い、理解や納得していただいた上で契約を締結している。また、解約に際しては本人を含め、家族、主治医等と相談・説明・同意を得た上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族への手紙により近況報告を行い、意見や要望、相談を受けている。また、運営推進会議には家族代表の方に委員として出席をいただき、外部との意見交換の機会を設けている。	コロナ禍においても感染対策を行えるだけ家族の面会を受け入れてきた。通院が必要な場合には家族協力による通院や付き添いをお願いしている。家族と会う機会には入居者の状況を報告するとともに意見を頂く機会としている。運営推進会議には家族代表との意見交換も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスやリーダー会議、日々の申し送り時など意見や提案を聞く機会を設け、情報の共有を出来る様にしている。また、年2回の個別面談を行う事で、個々の職員の意見や相談に応じる事が出来る様に取り組んでいる。	職員は毎月の職員会議だけでなく日頃より管理者へ意見や提案を表すことができ、職員の様子によって管理者から声を掛けることもある。管理者による年2回の個別面談では要望等がないかも確認しており、職員の意見・提案・要望等は施設長へ報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、半年に1回の人事考課や面談を実施する事で現状を把握し、職場環境の整備に努めている。		

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の内部研修開催や外部研修への参加で職員のケアの質が向上に繋がる様にしている。また、業務を通して介護人材の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者及び職員がグループホームブロック会や地域ネットワークへの定期的な参加を促し、意見交換や交流出来るに取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族よりしっかり意見を聞き、訴えには否定しない対応に努めている。本人の状況を把握し、不安をも受け止め安心してもらえる様に信頼作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望は出来る限り対応をしているが、施設の状況を考え、要望を超えたものに対しては、しっかりと家族と話し、対応が出来ない事を理解していただく様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する理由となる問題点と共に、本人の想いや不安を受け止め、行動等を見守り、支援内容については、本人の想いを大切に職員全体で実践出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活をどの様に過ごしたいのか一緒に考え、今での個々の生活環境に沿う様に心掛けている。また、毎日の生活の中でレクリエーションや家事、食事を一緒に行う事で満足していただける様に努力している。		

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や面会時に近況の報告を行っている。現在は、感染予防対策を行った上で、面会をしていただき話しやすい雰囲気を作っている。また、その際には信頼関係が築ける様に家族の要望に耳を傾ける様に努めている。遠方の家族に対しては、ビデオ通話等を活用した上で支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスやインフルエンザの流行により、感染予防対策として、面会の制限を行っている為に以前の様な対応は出来ていないが、SNSやビデオ通話等の活用や居室内に写真を飾る等関係が途切れない様に支援を行っている。	感染症流行等により支援が難しい状況が続いており、現在は家族との関係が疎遠にならないような支援が中心である。少しずつではあるが、入居者の買い物支援や地元の神社へのドライブ等を再開しているところである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者本人の体調を見ながら、日中はホールで過ごしていただき、リハレク等の時間を通じて交流していただく様に図っている。話が苦手な方に対しては職員が定期的に入りに入り、利用者同士の関りが深くなる様に対応を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人や家族へ連絡を行ったり、悩みや相談を傾聴し、安心していただける様に対応を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を聞き、また家族からの情報、意向やアセスメント、日々の関りの中で本人の表情、言動などを把握し希望を汲み取れる様に努めている。	日頃の職員の寄り添いで思いや意向を把握しているが、入居者からの言葉による発信は年々少なくなっている状況も見られる。欲しい品が確認出来た際には、可能であれば一緒に買い物に出向いたりすることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から自宅での生活の様子など伺える様に訪問調査、面会時に積極的に話をしている。また本人へも日頃の様子など聞くようにしている。入居後の生活に不安が無いように対応出来る様に努めている。		

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、支援記録を全職員で共有し、本人の心身状態や出来る事、現状を把握し、職員間で情報交換を行っている。その上で職員本位にならない様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活に変化があった場合、家族からの要望に速やかに対応した計画の見直しを行っている。常にケアカンファ、申し送り、毎日の記録から職員全員が情報を共有する事で本人・家族・職員で話し合い、本人本位の計画を立案している。	状態が安定している入居者の場合には3ヶ月毎に評価を行い半年後の見直しを基本としている。モニタリングはカンファレンス時の職員の意見をまとめケアマネージャーを中心に行っている。状態変化時には家族の意見も確認し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者それぞれの状況に即した介護計画の作成がなされていました。介護計画は理念に繋がるものと考えます。介護計画と理念の関係、介護計画が意味することを職員間で共有することで、職員皆さんの介護の力が入居者それぞれの潜在能力を引き出し、自立に向けたケアに活かされることに期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を目にするとその方の生活状態が解かる様な記録の書き方を工夫して共有している。課題や対応は毎月のケアカンファの際に計画の実践状況を確認し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況やその時々に応じ、出来るだけ満足出来る支援に心掛けている。また、コロナ禍で面会等にも制限があり、テレビ電話、窓越し、パーテーションを使った取り組みも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災ラジオや広報誌にて地域の情報を収集し、地域での計画を把握出来る様に努めている。また、行政や医療機関とも相談・意見交換し、利用者が安心して暮らせる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的訪問診療やネットワークを活用し、状況報告や相談を行っている。状況により電話対応、必要時の往診などでかかりつけ医との連携を図り、適切な医療を受けられる様に努めている。	主治医からの訪問診療に加え、専門医等の通院が必要な際には家族協力による通院を基本としており、車椅子利用の入居者は職員による送迎も行う。往診日は医療報告・共有のために全職員参加のもとケアカンファレンス・モニタリングを行っている。	

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の申し送り、カンファ結果、受診サマリーや受診報告書等から情報収集に努め、各利用者に対しての観察力を高め、問題点の抽出、対応へと繋げられる様に報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の付き添いで病院関係者との面談し、経過や生活状況、入退時サマリーを通して情報提供を行っている。入院や退院後の円滑な相互受け入れに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化、終末期に関する指針のもとに利用者・家族へ説明を行っている。事前指定書や看取り計画を基に早めの段階から家族・医師・看護師・ケアマネージャーとの話し合いを重ね、利用者安らかな最期を迎える為に支援している。	入居時に重度化や終末期に向けた方針と事業所の対応について説明を行っている。実際にその時を迎えようとする際には家族・主治医・看護師等で話し合う機会を設け、その後も都度家族への状況説明と意向確認をしながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生マニュアルに従い、重症度や緊急性を見極め、家族・主治医・関係機関への連携システムに繋げている。職員はAEDや吸引など救急救命の知識技術向上の為に研修会の受講に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行う事で、職員1人1人の防災に対する意識が向上する様に努めており、訓練においては地域住民や自主防災組織、消防団の協力を得ている。また、BCPを策定する事により、緊急時においても対応出来る様に努めている。	事業所職員で行う年2回の防災訓練時には地域へも声を掛け、地域防災部・消防団にも参加頂き意見を頂いた。市の防災マップでは自然災害が心配される地域であり、市にも避難計画を提出している。大雨の際の避難について地域と意見を出し合い情報共有も行っている。緊急時に備えADLの操作は研修を重ねている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重しながらコミュニケーションを取り、気分を損なわない声掛けや精神的苦痛を与えない対応を行っている。また、個人情報の保護にも努めている。	入居者それぞれに対し、特にトイレ利用時やパット等交換、入浴時には配慮したケアを行っている。特にトイレ利用時はできるだけ職員はドアの外で待つようにしている。	入居者に対する日頃のケア・対応では配慮された支援がなされていることが確認できましたが、日中のポータブルトイレの置き場所・置き方には配慮が必要と考えます。検討願います。

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えの準備の際に洋服等を本人自身で決定していただく等、自己決定の機会を設け、コミュニケーションを取りながら支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が送れる様に居室環境の整備や、その方のペースや希望に合わせて日中を過ごしていただける様に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の自立度に合わせ、整容や洗面、衣類更衣等の支援を行っている。また、3ヶ月に1回程度の訪問整容を計画し、実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目でも美味しさを味わっていただける様な盛り付け、旬の食材を取り入れたメニューの提供を行っている。また、食事の際は可能な限り自力での摂取していただき、職員と共に過ごしている。また、食事後は利用者自らの申し出により、おぼん拭き等を行っていただいている。	調理師資格を持つ職員手作りの食事を提供している。行事を大切に、おやつ等でも季節を感じるような献立である。入居者のお盆拭き等の関わりも見られる。	誕生日には本人の好みによる献立がたえられる等、行事や季節に配慮した取組みが感じられました。食事作りから片づけまで全体を生活の一部と捉え、入居者の持つ力・できる力が出来るだけ継続できるような、見守り・寄り添いの時間も大切にしたい支援の工夫に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日食事1500kcal、水分1500ccを目標に食事作り、摂取支援を行い、1人1人の状態に合わせて、その方に合った形態で提供をするように努めている。また、自力摂取困難な方には補助具等を使用したり、一部介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の自立度に応じて声掛けし、一部または全介助を行い、義歯洗浄や磨き残しの有無の確認している。夜間においては、洗浄後に義歯を殺菌剤に浸して、清潔保持している。また、口腔物品については、週1回消毒や交換を定期的に行っている。		

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活チェック表やその時の状態を見てケアカンファや申し送り時に夜間時のポータブルトイレの使用や排泄のタイミングの声掛けについて検討し、実施している。	入居者それぞれのチェック表や様子・仕草等により日中はできるだけトイレでの排泄を支援しており、夜間はポータブルトイレの利用もある。夜間のポータブルトイレ利用の際も、できるだけ見守り、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活チェック表での食事・水分摂取量を把握し、腹部マッサージや乳製品の摂取を実施している。それでも、困難な方においては、医師に相談、指示のもとで薬物療法を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後から行う様にしている。日常チェック表や申し送り時で日々の体調を把握し、入浴者は午後からバイタル測定を実施し、本人の体調や希望を考慮しながら入浴支援を行っている。	日曜日以外はいつでも入浴できる準備があり、週2～3回の入浴を基本としている。入居者のその日の体調や気分も配慮した支援を行っている。体調が悪く入浴が難しい日が続く際には、清拭で清潔保持を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息や午睡の習慣、体調によりホールソファや居室等の希望に合わせて休息の支援を行っている。夜間においては、居室の温度調節、季節、体調に合わせて寝具を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更や副作用を職員全員が共有出来る様に申し送り時や服薬一覧表のファイル、管理日誌、ケアカンファにて周知に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の気分や体調を考慮し、洗濯物干しやたたみ、食事時に使用したお膳拭き等協力をいただいている。月1回の行事計画、天気が良い時の施設周辺の外気浴を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナやインフルエンザ等感染症の流行により、以前に比べて外出が出来ていないが、そんな中でも天候や体調を見ながら、外気浴やドライブ等外出支援に努めている。	感染症対策により以前のような気軽な日常的な外出や計画による外出は難しい状況が続いているが、日常的な散歩は継続している。「外出したい」との訴えがある際には対応している。中には職員と買い物に向く入居者もおられる。	

グループホーム えがお人吉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	預り金を家族に依頼し、施設において管理を行っている。主に生活諸費や受診代・薬代に使用している。利用者からの要望がある時には、家族へ確認、許可を得て購入出来る様に支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話していただいたりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度に注意し、入居者に不快感を与えないような声掛けや、色んな音にも気を付けている。机には季節の花や壁には行事毎に飾りつけを行い、季節を感じていただけるように心がけている。	日中入居者が過ごす時間も長い共用空間には季節の花や飾りつけを行っている。毎日入居者と日付の確認をし、干し柿や季節の行事を楽しむ等の取組みも行っている。利用者同士語らう姿も見られる。	訪問時には共用空間で過ごす入居者の方々の姿がありました。自由に居室の行き来ができる事も確認しましたが、共用空間と居室を結ぶ廊下との温度差が大きいように感じました。入居者の心地よい生活環境作りへの検討に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望を尊重し、居室やソファ等過ごしやすいよう誘導、支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使用して頂き、本人の希望を尊重し、安全面を考慮した上で配置している。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼しており、家族の関わりも感じる設えである。センサーマットを多様せず、ベッド下には衝撃防止マットを利用する等での安全確保にも取り組んでいる。季節の入替えにも家族の関わりがよく見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち上がりやすい六角テーブルを使用したり、手すりはもちろん、車椅子でも通りやすいを広さ確保するように努めている。また入居者の方でもわかりやすいような表示をしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームえがお人吉

作成日 令和 6年 1月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	126	職員内で介護理念についての理解が浸透が不十分である。	管理者・職員間の介護理念の共有	1. 介護理念についての研修を実施する。 2. 介護理念の意味を職員が理解出来る様に掲示を行う。 3. 入居者の自立支援に向けた介護計画の作成と計画に基づいたケアの実践を行う。	6ヶ月
2	6	車椅子と周辺の机や椅子とのスペースが無く、移動が困難である。	入居者が自由に移動出来る環境づくり	1. 共用空間の机や椅子、ソファの配置変更を行い、自由に移動できるスペースを確保する。	3ヶ月
3	36	日中の居室内ポータブルトイレの置き場所の配慮が不十分である。	居室にて居心地よく過ごせる環境づくり	1. ポータブルトイレを使用しない際には、居室の隅へ配置及びクローゼット内へ収納する。	1ヶ月
4	40	入居者のペースで食事を楽しめる様な時間が取れていない。	入居者が食事を楽しむ事が出来る様にする	1. 入居者が自分のペースでおやつを含む食事を楽しめる様に職員が寄り添い、一緒に過ごせる時間を作る。	1ヶ月
5	52	共用空間と廊下の温度差が大きい。	温度差を無くした居心地の良い空間づくり	1. 状況に応じて共用空間廊下側のドアを開放する。 2. 廊下及び居室の換気の時間を設定する。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

